



年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学工業会会長

鈴木 胖

新年明けましておめでとうございます。旧年中は本会の活動に多大のご協力とご支援をいただき、まことに有難うございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は8月豪雨による広島市の土砂災害、9月末の御嶽山噴火という大災害の発生、頻発する地震や大型台風の襲来など日本はまさに災害列島の様相を呈しました。10月に入って、2014年ノーベル物理学賞が青色LEDを発明した赤崎勇、天野浩、中村修二の3氏に与えられるという明るいニュースが伝わり、日本中が湧きました。いろいろと問題を指摘されていた学術研究について、その重要性が久方ぶりにクローズアップされました。

さて、1919年に大阪高等学校の同窓会「大阪工業倶楽部」として発足した当会は、1971年大阪大学工学部の時代に「社団法人大阪工業会」として文部省の認可を受けました。2012年には法律の改正を受け「一般社団法人」に移行しました。昨年で年齢に例えれば95歳を迎え、現存の卒業生、在校生の人数は約4万人にのぼります。

当会は新しい定款に従い、公益継続事業と共益事業（同窓会活動）という二つの事業を実施しています。

公益継続事業としては、

- (1) 各種講演会の開催及び援助、数学講座の開催、工場や施設・工事現場の見学、科学技術展示会、ホームページ (Techno-Net Web) 掲載による情報の伝達・啓発活動等の事業。
- (2) 海外交流活動の援助・支援、大学の科学技術に関する調査・研究活動に対する援助（寄附）、大阪大学工業会賞の授与等の事業。
- (3) 研究・科学論文誌「TECHNO NET」の刊行（年4回）。
- (4) 企業の協力を得て各種セミナーを開催し、会員・非会員を問わず学生のキャリア教育を推進。

共益的の事業としては同窓会活動、すなわち会員を対象とした総会（年1回）、理事会（原則年2回）、支部総会（年1回）、支部役員会（原則年2回）等の開催。

当会の最大の課題は会員（卒業生、在校生、現役教員）のうち会費を収めていただいている方の増強です。特に学生会員増強のため、入学時に当会への入会を勧めていますが、結果ははかばかしくありません。また、現役教員の入会率も40%という有様です。このような状況を打開するためには大学との連携を一層緊密にし、学生や教職員に大学の教育研究活動への工業会の支援を身近に感じてもらうことが基本的に重要であると考えています。

昨年の年頭挨拶でも述べましたように、工学研究科では現在の工学部地区にある福利厚生会館（おもに食堂）の耐震改修工事を機に、大阪大学未来基金に「工学部・工学研究科教育研究事業」を設置し、隣接して吹田福利交流研究棟（仮称）を新たに建設することを計画しています。この福利交流研究棟は6階建て、延床面積約3,700㎡の規模で、1階は食堂の拡張部分、2階は売店、コーヒースタッフなど、3階は交流スペース・サロン、4～6階はオープンラボが設けられる予定です。総工費は約13億円で、2016年度中の完成を目指しています。当会では大学との連携をさらに強化し、活動の新しい展開を図ることを狙い、昨年6月の総会において、福利交流研究棟3階の交流スペースに当会事務局を移転すること、建設のため1億円の資金を提供することを決めました。建設は2015年度初めの予定です。

ご報告をかね、本会の活動への皆様の一層のご支援・ご協力をお願いし、新年のご挨拶とさせていただきます。

（電気 昭和33年卒 35年修士）



年頭所感

2015 年 今年こそ

大阪大学理事・副学長

馬 場 章 夫

明けましておめでとうございます。皆様とともに新しい年を迎えられましたこと、心よりお慶びを申し上げます。

毎年ご挨拶をさせていただき、今年こそは大変革が必要とずっと申し上げてきたと記憶しています。環境の変化が予想外に大きく、変革が追いつきませんでした。それこそ、想定外の事故・事件に加えて大きな自然災害までもが多発しています。社会全体にも漠とした不安を感じますが、希望を持って努力していきたいと思えます。「今年こそ」です。

まず情緒的に…。組織改革での対応を目指してきたことを反省します。落ち着いて考えれば、予測できない変化には個人が変わるほうが結局は正しく効率的な対応のような気がします。組織のために個人・個性が殺される時代はまっぴらごめんです。今年こそ、今年こそ、といいながら、肝心なことを見失って堂々巡りをしてきたような気がします。個人的には「今年こそ」、勝手ながら家族のこと、健康のこと、趣味のこと、働き方を見直すことにします。日本全体としては「持続的な安心・安全」を目標にしたら如何でしょうか。世界のどこにもない「日本ブランド」の提案です。安心安全な街、製品、乗り物、食べ物、おもしろいやり、法律や施策も安心安全を基本目標とするのは如何でしょうか。資源がない、人口が減る、エネルギーがない、そのような条件の下で日本ブランドを確立するには、血のにじむような努力と忍耐が必要になると思います。イノベーションやグローバル、コンペティションという言葉には、どこか浮かれた（元気な）響きがあります。もしも、すべてが「優勝劣敗」だとすれば、勝利の裏には多くの敗北があることを意識すべきです。腹を据えて、安心・安全を作りあげる努力を不断のものとするれば日本ブランドにできるのではないのでしょうか。

次に現実にもどって…。副学長としての主務である、大阪大学の産学連携事業について紹介させていただきます。最も大きな事業は「特定成果活用支援事業」です。大阪大学には、総額で 200 億円が国から託されています。大学が出資して大阪大学ベンチャーファンド（株）を立ち上げ、民間と共同でファンド（組合）を形成して大阪大学発の技術と知恵を世の中に出していきます。最大 15 年間続く予定です。国立大学が係るものですので、社会に貢献できる事業を推進しながらも利益をあげることが求められています。この文章をご覧になっているころには会社登記が終わり、ファンドを立ち上げて、個別事業に取り掛かっている

予定です。この事業がきっかけとなり、国立大学が出資できるように法律改正がなされました。国立大学の有り様を大きく変える可能性を持っています。大阪大学の特徴を生かした新しい事業も可能となります。皆様のお知恵をお借りしたいと存じます。

もう一つの産学連携プロジェクトとして、COI（Center of Innovation）事業が本格化しています。これは、出口を見据えた産学連携の仕組みとしてプロジェクトリーダーを企業の方にお願ひし、まず 20 年後のニーズを設計して、その実現に向けて活動し、かつ具体的成果が求められるというものです。9 年間続きます。20 を超える多くの企業と、大阪大学の多くの研究者が一つ屋根の下で協力する（under one roof）体制が確立され、「人間の活性化」を目標にスタートしています。

出資事業は 4 大学で、COI は 12 拠点でスタートしていますが、ともに、今までにないタイプの産学連携活動であり、今後の大学の姿勢を変えうるものです。大阪大学にとっても極めて重要な意味を持つものであり、産学連携活動の中核を担っていただく工学研究科および同窓の諸氏にも、ご協力いただけることを期待しております。折に触れてご紹介させていただきますので、ご注視ください。

国立大学が法人化して 12 年が過ぎ、第 2 期中期計画の時期も最終年度に入ります。大学の仕組みも大きく変わることが予想されています。国からの資金である運営交付金は大きく減額され、大阪大学でも人件費にも大きな影響を及ぼします。「今年こそ」、変化を先取りする勢いで頑張っていくことを決意し、覚悟もしています。皆様の知恵をお借りして新しい大阪大学、大阪大学工学部を作ることを夢見ています。

最後に、うれしいニュースを。昨年、「大阪大学発の共同研究講座」が産学官連携功労者表彰を受け、文部科学大臣賞を受賞しました。平成 18 年に工学研究科で始まり、学内全体に広がり現在 40 講座近くに増加していることと、多くの他大学にも普及してきたことが評価されたものです。新年のうれしい話題にいただければ幸甚に存じます。今後は文意融合型の講座を作ることを夢見ています。

今年こそ、素晴らしい明るい 1 年になることを祈念しております。

（応化 昭和 46 年卒 48 年修士 51 年博士）



年頭所感

新春のご挨拶

大阪大学大学院
工学研究科長・工学部長

掛 下 知 行

平成 27 年の年初にあたり謹んでご祝詞申し上げますとともに大阪大学工業会の皆様のご多幸を祈念申し上げます。

また、常日頃より大阪大学工業会の皆様方からの温かいご支援を頂戴しておりますことに対し、改めて厚く御礼申し上げます。

工学研究科は、「世界を先導する研究力」という大きな柱に加えて、「人材育成」がもう一つの重要な柱であることは言うまでもありません。特に、グローバル社会の人材育成は極めて重要な課題であるため、工学研究科におきましても、世界の大学と伍して教育・研究の世界的拠点となるための人材育成のシステム構築のみならず教育・研究環境整備の維持・改善を強化しているところであります。また、構成員の生活環境の維持・改善も重要な課題であり、この十年間は建物の耐震改修をはじめとするキャンパス整備を進めております。今年度は、地球総合工学系・環境エネルギー工学系等の建物の改修を予定しており、これが終了しますと、教育・研究棟の改修がほぼ終了することになります。この時期に合わせ、福利厚生研究棟を新築し、全学の学生ならびに教職員の総数のおよそ 25% を有する工学研究科の福利の改善を図ることにしております。この新築により、現在の学生食堂では同じ席を一日に 5 回転して利用しているなどの大きな問題が改善されることとなります。この建物は今年の着工を目指しており、場所は、現在の福利厚生棟の北側で 6 階建てを目標としております。その 3 階に工学部の同窓会である工業会の事務局が入居される予定となっております。そのため、早や一年ほどになりますが、工学部・工学研究科の卒業生や工学研究科に関連のある企業の皆様方のご支援を募っているところであります。この件に関しまして皆様方のご厚情ならびにご協力に深く感謝いたします。特に、大阪大学工業会からは、本事業に対し寛大なるご理解を頂くとともに多大なるご寄付を頂くこととなりました。この場をお借りして改めて衷心より御礼申し上げます。

また昨年 9 月に、大阪大学は文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」プログラムに採択され、「GLOBAL UNIVERSITY 世界適塾」構想の実現を進めております。このプログラムでは、グローバル社会において活躍する人

材の輩出を目的とし、そのための教職員組織などの改革を目指し、新たな研究科の創設、入試改革、学事歴の変更、年棒制の導入などが計画されています。これらの事項は平成 29 年度から実施される計画であり、そのため、今年度は、これらの具体的な実施策定に関して多くの時間が費やされることとなります。工学研究科は、上述のように全学の教職員・学生の 25% を抱える大きな部局であることから、それらの対応を一つ一つ慎重にかつ将来を見据えた教育・研究体制を考慮して進めたいと思っております。

すなわち、これまで工学研究科において進めて参りました教育・研究に対する基本方針を維持するとともに、人材育成活動は長い視点で腰を落着けて臨む姿勢が大切であることを念頭に置きつつ改革を進める所存です。その結果、20 年、30 年先に、多くの卒業生が世界を先導する人材として活躍していることを期待します。

各省庁からの大きな公募の獲得状況（昨年度）ですが、工学研究科に構築しました戦略支援部の尽力により、文科省への概算要求（アジア人材育成のための領域横断国際研究教育拠点形成事業）ならびに内閣府等の省庁から公募がありました ImPACT ならびに SIP プロジェクトを工学研究科は多数獲得しております。特に、工学研究科に SIP の拠点（三次元異方性カスタマイズ化設計・付加製造拠点の構築と地域実証 等）がいくつか形成されることになり、大変うれしく思います。

毎年の年頭のご挨拶で述べておりますように、工学研究科は、将来にわたってグローバル社会の発展に恒常的に寄与できる「人材育成」と「世界に誇る研究力の展開」を核に置いて我が国の将来を牽引できる人材輩出を目指す活動を常日頃から行っております。これらの活き活きとした取り組みが、国内外から益々高く評価され、それがまたより一層の魅力となって大きな弾み車のように常に回転し続け、将来を担う若い人たちを吸引し続ける工学部・工学研究科でありたいと強く思います。大阪大学工業会の会員の皆様方からのご支援・ご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

（学 界）



年頭所感

新年のご挨拶

大阪大学同窓会連合会会長
大阪大学元総長・名誉教授

熊谷 信昭

新年明けましてお目出とうございます。今年は西暦2015年、日本の紀元では2675年、昭和で数えれば昭和90年、終戦から丁度70年、等々と大変きりのよい年になっています。

私共の母校大阪大学は昨年4月に学部・大学院合わせて総計6,405名の新入学生を迎え入れました。大阪大学の学部新入学生の入学定員数は、長い間1位を続けてきた東京大学を抜いて平成23年以降全国立大学の中で最多となっています。開学初年度（昭和6年度）の大阪大学の新入学生数が医学部と理学部のたった2つの学部を合わせて僅か86名に過ぎなかったことを思い出すと、まさに隔世の感があります。

また、キャンパスも、開学当初は大阪市内の中之島にあった大阪府立大阪医科大学の施設をそのまま移管した医学部の建物と、その近くの塩見理化学研究所の建物の中に新設の理学部が仮住まいしていただけで、とてもキャンパスとよべるようなものではありませんでした。3年後の昭和9年4月にやっと医学部に隣接して新しく理学部の建物が出来上がりましたが、大学本部の建物などはなく、総長室や本部事務局などもこの理学部の建物の中に同居していました。

その大阪大学が、現在では豊中キャンパス、吹田キャンパス、箕面キャンパスの三つの立派なメインキャンパスのほか、大阪市内の中之島には大阪大学中之島センター、東京の霞が関には文部科学省のすぐ目の前に昨年3月に開設された大阪大学東京オフィスなどを持ち、海外にも北米センター（サンフランシスコ）、ASEANセンター（バンコク）、欧州センター（グローニンゲン）、東アジアセンター（上海）の4つの海外拠点を立てて教育・研究の国際交流や同窓会活動の支援などを行っています。

大阪大学プロフィール2014によりますと、現在、大阪大学に在籍する学生の総数は学部、大学院合わせ

て23,429名で、そのうち女子学生数は7,167名にのぼります。学部学生だけに限れば約1/3の5,004名が女子学生で、大学院にも2,000名を超える2,163名も女子学生がいるのです。

そして、全教員（3,168名）のうち女性の教員が424名もおられ、しかもそのうち女性の教授が実に63名もおられるのです。これは非常勤の招聘教授や客員教授などを含まない、正規の常勤の女性の教授だけの数なのです。また、海外からの留学生は世界113ヶ国・地域から学部・大学院学生と研究生を合わせて2,012名を数え、外国人教員の数も118名にのぼっています。

このようなことは、現職の方々や今の学生さん達にとっては別に驚くようなことではないのかもしれませんが、私などのように半世紀以上も前に大阪大学を卒業した者にとっては7,000名をはるかに超える女子学生、63名の教授を含む400名以上の女性の教員、2,000名を超える海外からの留学生、120名近い外国人教員が阪大におられるなどというようなことは全く驚きの一語に尽きます。

大学の価値はもちろん学生の数や規模の大小などによって決まるものではありませんが、発足以来84年間の大阪大学の歩みは学術・研究の成果も含めて名実ともに発展と充実の一途をたどってきた歴史であったということができましよう。卒業生の方々も国内外の各界・各分野で目覚ましい活躍をしておられます。

輝かしい歴史と伝統の上に立って、これからも常に活力溢れる若々しい大学として世界のトップ10を目指す大阪大学の益々の発展と、大阪大学工業会の会員の皆様方のお一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（通信 昭和28年旧制卒）

新しい年を迎えて

大阪支部長

藤井 宏一

新年を迎えて

東京支部長

池田 博昌

皆様新年おめでとうございます。

今年も皆様にとって良い年になる様願って居ります。

しかし世の中日本を取り巻く環境は、決して良いものではありません。

日本の領海に侵入し、我が物顔をして海産物（さんご）等永年かかって成長したものを採って帰る船が多数おります。

新聞等で報道されていますが、取り締まっている様子がありません。

四方海に囲まれた日本の守りはどうなっているのでしょうか。

このままの状況で良いとは思えません。

一日も早く対処して戴きたいです。

さて話はかわりますが、中国古典の勉強会に出席して居り心に残る文章がありました。

それ境^{きよう}は、心に随って変ず。
心垢^{けが}るときは、すなわち境濁^{にこ}る。

心は、境を逐^おって移る。

境閑^{しずか}なるときは、すなわち心朗^{しんろう}かなり。
心境冥^{しんきやうめい}会して、道德玄^{はるか}に存す。

「性霊集巻二」に、心に随って環境が変わっていくと同時に、環境によって人間も変わるとその両方を書いておられます。

したがって、心と環境とは両方がお互いに影響し合っているのですが、大事な事は自分たちの心が環境を動かす方が多くあるのだという事です。

(冶金 昭和 26 年卒)



新年明けましておめでとうございます。会員の皆様にはご清祥にて穏やかな新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。支部長をお引き受けして 14 年目(7 期後半)に入ります。支部の運営に当たり、会員の皆様の温かいご理解・ご協力に感謝しております。

今年の干支は乙未であり、暦占いによれば、物事が速いテンポで進んでゆく年となり、経済・社会面では希望あふれる年となるそうです。外交面では、日中・日韓・日朝・日露の関係改善が期待されると共に ASEAN 諸国とのビジネスが活発化しそうです。賃金・雇用などの上昇傾向は継続する模様ですが、景気はどうなるでしょうか。そして、気象面では地球温暖化の傾向がますます顕著になり、昨年に劣らない猛威が予想されるようです。

昨年は、青色発光ダイオードに対する日本人のノーベル物理学賞受賞という快挙があり、スポーツでは、ソチ五輪に始まり、錦織圭選手の世界舞台での大活躍、仁川アジア大会での日本勢の活躍、世界体操での内村 V5、リーグ 2 位の阪神が日本シリーズ進出など明るいニュースがありました。経済は上向きの兆しが見え、株価は 7 年振りに 17,000 円台に乗るまでに進みました。しかし、最近では定例化してきた猛暑、ゲリラ豪雨の被害など地球温暖化が急速に進んでいる兆候が頻繁に見られ、御嶽山のように予測できない突然の大噴火までが起こってきました。広島の大規模土砂災害も大変なことでした。お見舞い申し上げます。エボラ出血熱やデング熱の脅威まで出てきました。悩んでいても仕方ありません。前向きに考えて明るい健康な生活を維持したいものです。

3 年前に発足した大阪銀杏技術士会(阪大技術士会)は、着実な進展をしており、会員数も徐々に増加してきております。阪大卒業者の中で技術士の資格をお持ちの方は会員登録を頂くと幸甚です。皆様のご理解をお願いします。

OKC 東京支部の活動に關しましては、月例の夕方の「二日会」、昼食会としての「二水会」はいずれも会員相互の懇親を深める会として着実に開催しております。二日会には平均 20 名、二水会には平均 12 名の参加があり、毎月賑やかに話題が広がっております。なお、本年から二日会の会場が変更になります(支部だよりをご参照ください)。二日会の日の午後に実施している「囲碁同好会」も毎月盛況です。四五行事と称している「総会」「ビールの会」「秋の集い」「新年会」では最近では 65 名程度のご参加を頂いております。「ゴルフ同好会」については春秋と開催してきましたが、昨年 10 月に 100 回大会を迎え、ますます盛んです。さらに、一昨年 1 月から経済学部・法学部 OB との懇親ゴルフも始めることになり、当支部からは 10 名が参加しております。今年も 1 月 10 日に予定しております。「旅行同好会」も軌道に乗ってきており、「飛騨高山の秋祭りと奥飛騨の紅葉を満喫する旅」として 3 日間の観光とゴルフを楽しむ会を、大阪支部からの参加も得て 10 月に実施しました。冬季には「スキー同好会」の活動も積極的に行われております。またカラオケ同好会もスタートしました。

四五行事には 100 名を目標として参加者の誘致に努力するなど、6 名の副支部長の絶大なご協力により活性化に努力しております。本年も、支部活動のさらなる活性化に向けて引き続き取り組みますので、ご期待いただきたいと思います。東京支部の会員諸氏におかれましては、支部の各種催事に奮ってご参加いただきますよう、年頭にあたりお願い申し上げます。

(通信 昭和 34 年卒)